

令和6(2024)年度日米音楽交流事業について



令和6年度日米音楽交流事業 参加者集合写真(終了後撮影)

令和6(2024)年9月29日、沖縄アリーナにおいて、沖縄防衛局主催による『2024日米音楽交流合同コンサート in OKINAWA ARENA ～いちゃりばちょーでー～』を開催しました。この事業は、在日米軍の施設及び地域の周辺住民の方々と在日米軍人・軍属及びその家族との相互理解の促進を図ることを目的に、平成20(2008)年度から開催しているものです。

今年度は、沖縄東中学校、嘉手納中学校、あげな中学校、具志川中学校、美来工科高等学校、嘉手納高等学校、航空自衛隊南西航空音楽隊、陸上自衛隊第15音楽隊、米海兵隊第3海兵遠征軍音楽隊の約220名にご参加いただき、音楽交流を通して親睦を深めました。また、当日は日米合わせて延べ3,000名の方々にご来場いただき、参加者の素晴らしい演奏を楽しんでいただきました。

目次

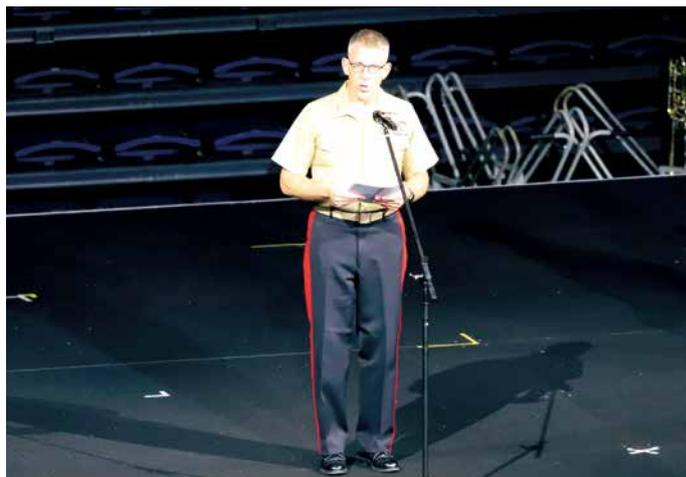
CONTENTS

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 令和6(2024)年度日米音楽交流事業について …… 2 ◆ 第2回那覇港湾施設移設に係るてだこの都市・浦添の振興に関する協議会の開催について …… 3 ◆ 防衛省井上大臣官房審議官等による公園遊具視察 …… 3 ◆ 軍転協による三沢視察について …… 4 ◆ 嘉手納三連協による三沢視察について …… 4 ◆ 恩納村塩屋公民館落成式 …… 4 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 米軍人に対する飲酒運転根絶対策について …… 5 ◆ 埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化を目的とした自治体間連携に関する基本協定の締結について …… 5 ◆ 辺野古区・豊原区・久志区民運動会の開催について …… 6 ◆ 野国總管まつり奉納全島角力大会について …… 6 ◆ 不発弾処理4万件到達について …… 7 ◆ 令和6(2024)年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式典 …… 8 |
|---|--|

令和6(2024)年度日米音楽交流事業について



開会挨拶
伊藤晋哉沖縄防衛局長



来賓挨拶
第3海兵師団司令官 クリスチャン・F・ウォートマン少将

参加者の皆様からは、「この行事で色んなことを学ぶことができたので、とても良い経験になった」「今回の合同演奏で音楽の素晴らしさや米軍との交流で米軍に対する意識が変わった。またこのような機会があれば参加したい」という声を多数いただきました。また来場者の皆様からも「子どもたちに交流の大事さが伝わる素晴らしい体験。今回のようなコンサートがあればまた来たい」「これから毎年開催してほしい」等のご要望が寄せられました。

沖縄防衛局では、今後とも本事業を通じ、更なる日米間における親善が図れるよう取り組んで参ります。



開場時の様子



会場の様子



フィナーレの様子

第2回那覇港湾施設移設に係るてだこの まち 都市・浦添の振興に関する協議会の開催について

令和6(2024)年11月29日、防衛省が主宰する、第2回「那覇港湾施設移設に係るてだこのまち都市・浦添の振興に関する協議会」(てだこ協議会)を浦添市において開催しました。

本協議会の構成員である沖縄県及び浦添市にご出席いただき、政府側からも防衛省及び内閣府が出席し、オブザーバーとして国土交通省及び那覇港管理組合にもご出席いただきました。

本協議会においては、浦添市から、振興に資する事業計画案の進捗について報告があり、内陸エリアは、今年度中に基本構想を策定し「福祉関連総合拠点整備事業」を優先的に進めていく、西海岸周辺エリアは、来年度中に基本構想を策定し「西洲(いりじま)地区避難道路整備事業」を優先的に進めていくとの説明がありました。

これを受けて、防衛省、内閣府及び沖縄県は、浦添市の取組に対し、しっかりと協力していくことを確認しました。

このほか、浦添市からは、本年11月、防衛省の民生安定助成事業として5か所の公園遊具の改修に係る補助が追加で予算措置されたことに対する謝辞がありました。

那覇港湾施設の移設に向けたプロセスが本格化する中、今回の協議会において、国、県、市が一体となり、移設先である浦添市の振興にしっかり取り組むことを改めて確認できたことは、大変重要であると考えています。

沖縄防衛局としては、那覇港湾施設の移設に向けて、地元にも丁寧に説明しながら、引き続き、全力で取り組んでまいります。



第2回てだこ協議会の様子(国側)



第2回てだこ協議会の様子(地元側)

防衛省井上大臣官房審議官等による公園遊具視察

令和6(2024)年11月29日、「てだこ協議会」の開催にさきがけて、防衛省の井上大臣官房審議官と内閣府の中嶋大臣官房審議官は、浦添市の松本市長のご案内のもと浦添市宮城のチョンダ公園において、使用禁止となっている遊具を視察しました。

松本市長からは、

- チョンダ公園をはじめとして、市内の公園遊具の多くが老朽化等により使用禁止になっている
- 子どもたちのためにも、公園遊具の改修については、浦添市の課題として、早急に解決に取り組むたいと考えていた
- 防衛省から追加で予算措置されたチョンダ公園を含めた5か所の公園遊具の改修に係る補助も活用し、しっかり改修を進めていきたい

旨のご説明がありました。

浦添市内の公園について使用できない遊具の数は全体で208基あり、そのうち113基、およそ54%が使用禁止となっているとのこと。沖縄防衛局としても浦添市と緊密に調整を行いながら、しっかりと取り組んでまいりたいと考えています。



松本浦添市長より説明を受ける

防衛省井上大臣官房審議官と内閣府中嶋大臣官房審議官



公園遊具の現状

軍転協による三沢視察について

令和6(2024)年11月15日、沖縄県軍用地転用促進・基地問題協議会(軍転協)の県外視察として、沖縄県及び7市町村(沖縄県の又吉知事公室基地対策統括監ほか16名)が航空自衛隊三沢基地(青森県)を視察しました。三沢基地では第3航空団より同基地及び部隊の概要、任務等について説明を受け滑走路等の視察を実施。また、東北防衛局三沢防衛事務所では白澤次長より同事務所の業務説明後、三沢基地周辺の集団移転現場(移転元)視察を実施しました。沖縄県外に所在する自衛隊施設等の知識を深めていただけたものと考えております。



東北防衛局三沢防衛事務所での業務説明



集団移転の現地にて(三沢基地周辺)

嘉手納三連協による三沢視察について

令和6(2024)年11月26日から27日にかけて、嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会(嘉手納三連協)の県外視察として、沖縄市副市長、嘉手納町長、北谷町長及び議会議長ら10名が米軍三沢基地及び航空自衛隊三沢基地(青森県)を視察しました。米軍三沢基地及び航空自衛隊三沢基地においては、基地及び部隊の概要、任務等について説明を受けた後、運用している航空機(米軍:F-16、空自:RQ-4B)の見学を実施しました。また、東北防衛局三沢事務所においては、東北防衛局本多総務部長より東北防衛局の業務説明を実施しました。今回の視察によって、沖縄県外に所在する米軍施設、自衛隊施設及び地方防衛局につき、見識を深めていただけたものと考えております。



米軍三沢基地にて



自衛隊三沢基地にて



東北防衛局三沢防衛事務所での業務説明

恩納村塩屋公民館落成式

令和6(2024)年10月26日、恩納村塩屋公民館の落成式典が行われ、関係者及び地域の皆様方が出席し完成を祝いました。本施設は、室内競技が行える多目的ホールを備え、お年寄りや車いすの方でも安心・安全に利用できるよう、エレベーターを備えて館内全面バリアフリーとしたことで、これまで以上に多種多様な地域コミュニティ活動が行える施設となっております。本事業は、恩納村が当省の「特定防衛施設周辺整備調整交付金事業(交付額:約3億9千万円)」を活用し整備したものです。



櫻井次長の祝辞



公民館外観(写真:恩納村塩屋区提供)



多目的ホール(写真:恩納村塩屋区提供)

米軍人に対する飲酒運転根絶対策について

沖縄県においては、県民の飲酒運転根絶意識の高揚と飲酒運転の根絶を目的に、令和6(2024)年6月1日から「令和6年度沖縄県飲酒運転根絶県民運動(主唱:沖縄県交通安全推進協議会)」に取り組んでいます。

同運動の一環として、県内各地で「飲酒運転根絶アドバイザー」の講話や、県担当者による教養等を実施しており、米軍人に対しても、各軍ごとに実施しているところです。

今回の講話では、自身の飲酒運転により重度の障害者となった飲酒運転根絶アドバイザーの宮城さんの体験談や沖縄県担当者による教養、実際に飲酒検知を実演するなど、参加された海兵隊員は真剣に耳を傾け、改めて、飲酒運転の根絶に対する理解が深まる講話となりました。



アドバイザーの講話の様子



飲酒検知要領の実演の様子

埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化を目的とした自治体間連携に関する基本協定の締結について

令和6(2024)年11月22日、沖縄防衛局にて「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化を目的とした自治体間連携に関する基本協定」の締結式を実施し、宜野湾市、浦添市、金武町、北谷町、北中城村及び沖縄防衛局(連携協力窓口)が基本協定を締結しました。

本協定は、「沖縄統合計画」に示された移設事業や自治体が計画している米軍施設・区域返還後の跡地利用において必要となる埋蔵文化財調査を円滑に進め、もって嘉手納以南の土地の早期返還と跡地利用の促進に資することを目的としています。

協定書には埋蔵文化財調査体制の改善・充実と調査の円滑化に関する複数の項目を設けており、本協定の枠組みを通じて関係自治体が相互に協力し、自治体間の連携・協力を円滑にすることを目指しています。

移設事業や跡地利用を行うにあたり、大規模な埋蔵文化財調査の実施が想定される場所、沖縄防衛局としては、今後とも関係自治体との所要の調整を着実にやり、本協定によって嘉手納以南の土地の早期返還と跡地利用が促進され、ひいては地元の皆様の生活の利便性が向上するよう、連携協力窓口としての役割を果たしてまいります。



協定書署名



記念撮影

(それぞれ左から比嘉北中城村長、渡久地北谷町長、佐喜眞宜野湾市長、松本浦添市長、仲間金武町長、伊藤沖縄防衛局長)

辺野古区・豊原区・久志区民運動会の開催について

令和6(2024)年11月3日、晴天に恵まれた空の下、辺野古区、豊原区及び久志区民運動会がそれぞれの区において開催され、多くの区民が様々な競技に参加しました。

辺野古区においては、区11班であるキャンプ・シュワブからも多数の海兵隊員や家族が代表リレーなどに参加し、区民と熱戦を繰り広げました。

当局職員もこれまで同様、各区の運動会に参加し、日頃の運動不足を反省しつつも、各区民の皆様と交流・親睦を深めることができました。



辺野古区運動会に参加した防衛局職員



区民と共にボール送りに参加(豊原区)



接戦の職域リレー(久志区)



代表リレーでの海兵隊員バトンパス(辺野古区)

野國總管まつり奉納全島角力大会について

令和6(2024)年10月6日から10月7日にかけて、嘉手納町兼久海浜公園において第44回野國總管まつりが盛大に開催されました。

同まつりにあわせて奉納全島角力大会が開催され、当局からは伊藤局長及び櫻井次長が観戦しました。初日の6日にはこどもウチナージマ大会、翌7日には全島大会が行われ、地域や家族の方々が声援を送るなか、県内各地から集まった多くの力士(シマトゥヤー)の方々が白熱する激闘を繰り広げました。沖縄角力(ウチナージマ)は沖縄県の伝統文化のひとつであり、両者が組み合った状態から開始するなど、大相撲とはルールや技などが異なり、柔道とレスリングを混ぜたようなスタイルの競技となっております。

嘉手納町においても同まつりのメインイベントとして定着しており、伝統文化の継承及び発展向上に努めているとのことです。



開会式



試合の様子

不発弾処理 4 万件到達について

那覇駐屯地に所在する陸上自衛隊第101不発弾処理隊は、昭和47(1972)年以来、沖縄県における不発弾の処理を担ってきましたが、去る令和6(2024)年8月23日、那覇市泊で発見された米国製5インチ艦砲弾の回収をもって通算4万件(累計1,884t)に到達しました。

4万件にあたり第101不発弾処理隊長は、隊員を前に次のように訓示しました。「4万件はゴールではなく一通過点に過ぎない。ただし、諸先輩方が築いてきた安全を第一とする部隊の伝統と、不発弾処に必要なノウハウをしっかりと継承してきたこと。さらに、自治体・関係行政機関等との緊密な協力があって到達できたのである。部隊が任務を開始して約50年が経ち、処理件数は4万件に達したものの、不発弾の脅威は、いまだに県民の生活の身近なところに存在している現況にある。引き続き安全確実を第一に処理活動を行い、不発弾の脅威から沖縄県民を守り抜くという務めを果たしていこう。」

第101不発弾処理隊は52年にわたり着実な処理を積み重ね、無事故でこの日を迎えることができました。引き続き「沖縄県の皆様安全・安心」のために務めを果たしていきます。



識別



回収



関係機関の方々と



4万件到達時



第15旅団長に報告



不発弾処理4万件到達沖縄県知事報告

令和6(2024)年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式典



令和6(2024)年10月10日、令和6年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式が、沖縄市民会館において日米共催で開催され、永年にわたり沖縄県内の在日米軍施設で勤務されてきた734名(10年表彰98名、20年表彰264名、30年表彰352名及び40年表彰20名)の方々の功労が称えられました。

表彰式典は、沖縄県副知事をはじめとした来賓の方々のご臨席のもと、日米の主催者を代表して沖縄防衛局長及び在沖米空軍第18航空団副司令官(在日米軍沖縄地域調整官代理)の式辞に始まり、沖縄防衛局長及び各軍司令官等から陸軍、海軍、空軍、海兵隊及びA A F E Sの受賞者代表に対し、それぞれ表彰状及び記念品が贈られ、永年の在日米軍に対する貢献に感謝の意が伝えられました。このほか、来賓の沖縄県副知事、沖縄県議会議長、在沖米総領事館総領事及び全駐労沖縄地区本部執行委員長からご祝辞を頂戴しました。

これに対して、40年表彰を受けた海軍の受賞者代表から「職務を通じて在日米軍基地の安定的運用そして日米両国の友好と親善に貢献できたことは大いなる誇りです」と勤続40年の想いがこもった答辞が述べられ、厳かに表彰式は終了しました。

式典の終了後は、受賞者の方々が職場の仲間や上司を交えて談笑したり、記念撮影を楽しむ姿が其処彼処で見受けられ、会場は多くの出席者の笑顔に満たされました。

